昭島市立拝島中学校

令和６年度　授業改善推進プラン教科別計画　【英語科】

学年	作成者	現状分析による課題	具体的な改善策　「いつまでに」・「どのように」・「どの程度」	
			短期的な改善策	中・長期的な改善策
1年	齊藤 成田	①家庭学習の時間が不足しており、単語や文法等の基礎が定着していかない。そのため、聞けば分かるが読んだり、書いたりすることができないという生徒が多い。 ②聞くことに関して、８割程度は内容を理解することができているが、質問に適切に答えたり、即興で話をしたりすることに課題がある。 ③書くことに関して、まとまりのある文を書くことや正確に文を書くことに課題がある。	①教科書に記載されている二次元コードを活用し、家庭学習として単語の発音やスペリング覚えるための練習をする時間を確保させる。 ②授業の導入に帯活動としてQ&Aの活動を取り入れる。ALTとも連携し、一人ひとりの発話量を増やしていく。 ③新出文法の学習時（小単元）に１文以上ずつ自身で英文を作る活動を積み重ねる。	①単元テストや音読チェックを積み重ね、生徒がどれだけ知識が身についているか、振り返りをする機会を設けていく。 ②自己表現の機会を増やし、対教員とのQ&Aだけでなく、生徒同士のペア→小グループと活動の幅を広げていく。 ③小単元で１文以上、単元で３文以上の英作文を作る活動を継続し、ALTのエラーチェックも受けながらまとまりのある、正確な文を作る力を育てる。
2年	角田 相田	①英文を作る際に、文構造や語順、語の運用など、英語の知識・技能の定着に課題がみられる。 ②話すことでは、即興的な会話活動において、文章で話すことに慣れておらず、単語や語句でのやり取りに終始してしまう。 ③まとまりのある文章を書くことや、英文を正確に書くことに課題が見られる。	①授業でワークシートやドリル教材を活用し、スパイラルに学習をすることで定着を図る。 ②英会話活動を通して発話の機会を増やし、表現の幅を広げるとともに、文章で答えるトレーニングを行い、定着につなげる。 ③日々の授業で自身の考えを書かせる活動を増やし、読み手を意識して書くことを習慣化する。教員によるエラーチェックと併せて、生徒同士の相互チェックを行い、気づきを促す。	①家庭学習で音読カードとデジタル教材を活用し、英語らしい発音を真似て練習させる。また、ライティングノートを活用し、基礎基本の定着を図る。 ②目的・場面・状況を意識したパフォーマンステストを設定し、定期的な評価とフィードバックを行い、成長を実感させる。 ③「話す→書く」活動を継続的に行い、エラーチェックを通して正確性の向上を図るとともに、生徒同士の文章を読み合い、自分の考えを再構築させ、深い学びにつなげる。
3年	茂谷 角田 相田 成田	①文法知識の定着に課題がある。読んだり聞いたりして理解はできるが、表現する際にうまく活用できていない。 ②話すことに対しての抵抗感は低くなっているが、単語で答えることがまだ多く、主語、動詞を含んだ文として発話することに課題がある。 ③まとまりのある文章を書くことや、英文を正確に書くことに課題が見られる。	①ドリルやワークを用いて理解を促す。また書くだけでなく、口頭での練習も多く取り入れることで運用力の向上につなげていく。 ②英会話活動をより多く取り入れ、生徒が英語を話す場面を増やしていく。基礎練習を繰り返し行いながら自己表現につなげていくことで、文章で答える力を養う。 ③英語力向上の基盤となる音読の練習量を確保しつつ、から「自身の考えや学習した内容を要約するなどの活動に段階的に取り組ませていく。個人で取り組むだけでなく、ペアやグループなどでも取り組ませ、気づきや学び合いを促していく。	①帯活動などに取り入れ、繰り返し練習を行うことで基礎・基本の定着を図っていく。 ②単元末ごとにインタビューテストやスピーチ発表、音読テストなどを実施し、評価を与えることで生徒自身の上達を実感させることで成長を感じさせる。 ③「話すこと」から「書くこと」につながるよう言語活動を継続的に行っていく。生徒同士での活動を通して互いの表現から学んだりエラーに気づいたりしていくことで自身の考えや学びを深めさせていく。